

第 1 回・第 2 回 地域別勉強会開催報告

1

●地域別勉強会

<構成>

公募や連合町会などからの推薦をいただいた区民と区職員の総勢 187 名で構成

<参加者>

区民 : 130 名

区関係者 : 57 名

<進め方>

区内を 7 地域に分けて、地域別構想素案のとりまとめを行う

※ 7 地域

- ◆水元地域
- ◆金町・新宿地域
- ◆柴又・高砂地域
- ◆亀有・青戸地域
- ◆南綾瀬・お花茶屋・堀切地域
- ◆立石・四つ木地域
- ◆奥戸・新小岩地域

2

●第1回地域別勉強会開催概要

日 時：平成21年7月26日（日） 14：00～17：00

場 所：区立立石中学校体育館

参加者：総勢113名（うち区民78名）

1. 開会、あいさつ、関係者紹介
2. オリエンテーション、質疑応答
 - ・都市計画マスタープランとは
 - ・スケジュール
 - ・区全体の概況
 - ・区内で進められている街づくり事業などについて
 - ・区民アンケート調査結果
 - ・まちづくりに関わる潮流
3. 地域別顔合わせ・意見交換
4. おわりに
 - ・次回の勉強会について
 - ・閉会

3

●地域別顔合わせ・意見交換

7つの地域ごとに、自己紹介による顔合わせや、区民参加者がそれぞれに関心のあるテーマについて意見交換を行い、最後に各地域のファシリテータが代表して話し合った内容を発表。



4

●第2回地域別勉強会開催概要

日 時：平成21年9月6日（日） 13：30～16：30

場 所：ウィメンズパル

参加者：119名（うち 区民69名）

1. 開会、あいさつ
2. 第1回勉強会のまとめ
3. 第2回勉強会の進め方、ワークショップのルール
4. 地域別に分かれての意見交換
 - ・地域において守り育てる点、改善すべき点について
 - ・地域の将来像、基本方針について
 - ・まちづくりを進めるうえで取り組むべき重要なテーマについて
5. 地域別報告
6. おわりに
 - ・次回の勉強会について
 - ・閉会

5

●地域別に分かれての意見交換

各地域に分かれて、地域において守り育てる点、改善すべき点や、現行の都市計画マスタープランにおける地域の将来像、基本方針、まちづくりを進めるうえで取り組むべき重要なテーマについて意見交換を行い、最後に全体で集まって、各地域のファシリテーターが代表して内容を発表。

⇒引き続き、地域別勉強会での意見交換を重ね、次回策定委員会で中間報告



6

(参考) 第1回・第2回勉強会 各地域の意見の概要①

	概要
水元	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのテーマとして、住宅地では、防災性が低いことを重視していきたい。また、広域避難場所である水元公園までの避難路を考えることが必要。 ・市街地の質の向上という面では、現状は不十分。 ・水元地域は人口が増えており、住みよい住宅地をつくっていくことを検討したい。小規模な住宅地が増えており、最低敷地面積や隣棟間隔、建物の色、ブロック塀の制限など、きめの細かいルールが必要。 ・水元地域は緑豊かな地域であり、農地をどうしていくかなどを含めて、緑をどのように活かしていくかが重要。一方、中川沿いの水辺が活かされていない。 ・道路は、未整備の幹線道路の整備や、歩行者・自転車の安全性を高めていくことが必要。
金町・新宿	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心なまちづくりに取り組むべき。 ・金町浄水場の北側は非常に良い環境であるほか、水元公園のエリアも良い住環境が形成されており、これに限らず今ある住宅地や環境の維持・向上も必要。 ・新宿6丁目には大きな公園ができるため、防災の拠点として、また、住民が憩える公園として活かしていきたい。 ・東京理科大学が移転してくることから、これから若者が増える街になる。 ・現在、高齢者が多いものの、介護センターへ行くためのバスが少ないため、交通面で考えていくことが重要。また、JR貨物線の利活用も考えるべき。 ・各公共施設を結ぶことに加えて、水元公園や金町駅、柴又といった観光拠点を結ぶことも踏まえて、循環バスを導入すると良い。

7

(参考) 第1回・第2回勉強会 各地域の意見の概要②

	概要
柴又・高砂	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心というキーワードで、まちづくりを進めていきたい。交通の安全ばかりでなく、防災・防犯に対しても安心できるまちづくりを考えたい。 ・柴又帝釈天に代表される観光資源が多くあるため、新しい都市型観光を考えていきたい。様々な資源をもっと大事にして、街の文化や地域性を出すべき。 ・下町としての良さを活かしながら、活性化に向けた資源を作り出していく、残していく、増やしていくことも重要なポイント。
亀有・青戸	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのテーマとして、市街地の質の向上や安全・安心なまちづくりといった取り組みが重要。 ・地域のコミュニティがあってこそ、防災・防犯にもつながっていく。地域コミュニティの活性化が重要。 ・中川は桜並木の整備により緑の骨格として形成すべき。また、地域内の身近な緑道である曳舟川親水公園、亀有さくら通りなどは魅力資源。緑をつくる際には、合わせて管理のことも念頭に置くべき。 ・交通面では、亀有駅周辺での駐輪施設の充実や、青砥駅でのバス発着場の整備など、交通結節機能の充実が課題。 ・青砥6・7丁目のまちづくりは、地域にとって大きなインパクトを及ぼす。 ・亀有駅前には、両さん像が設置されたことから、観光面での波及効果を高めたい。

8

(参考) 第1回・第2回勉強会 各地域の意見の概要③

概要	
南綾瀬・お花茶屋・堀切	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲリラ豪雨への対応も含めて、水害対策など安全・安心が全ての基本。一時避難場所から避難場所への避難に関し、高齢者の足元が不安であることが課題。 ・高齢化の進行により、地域を支える人口が少なくなっているため、新たな居住者の誘導・定着が必要。 ・堀切菖蒲園、荒川の緑、曳舟川親水公園、古隅田川などの水・緑や、地域の中で顔がわかるほどのコミュニティが形成されていることがなどが地域の魅力。堀切菖蒲園は柴又と連携した観光拠点化や、観光振興と合わせた商店街の活性化が重要。 ・昔はきれいな水が流れていた河川が、現在は変わってしまっており、河川の環境改善対策が必要。 ・交差点での危険性や、お花茶屋駅駐輪場の利便性が悪いこと、堀切地域では緊急車両が入りづらい道路が多いこと等が課題。一方、狭い道路は、地域の色を醸し出している面があり、残していくところと、整備していくところの折り合いをつけていきたい。
立石・四つ木	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのまちづくりのテーマとして、防災が共通のキーワード。 ・木造密集地域では、建物の倒壊や火災の危険性が高いことが課題。また、水害対策では行政からハザードマップが出されたものの、どのように避難したらよいかや、家作りをどのように考えていったらよいか課題。 ・目指す方向性を検討する際は、例えば防災の改善で道を広げることになった場合、立ち退いて頂くなど負担を強いられる方が発生してしまうことを念頭におくべき。 ・これまでの計画には、医療や文化といった生活に関する記述が抜けている。 ・下町らしさは、ひとつの文化である。人情と風情があり、路地もあり、コミュニティの繋がりもある。

9

(参考) 第1回・第2回勉強会 各地域の意見の概要④

概要	
奥戸・新小岩	<ul style="list-style-type: none"> ・中川は、岸の両側とも葛飾区であることから、他の河川よりも重要。 ・中川の水害の安全性向上が最大のテーマ。また、地震の火災時に中川の水を消火用水として使えないか。 ・中川の水害対策が充実すれば、中川を活用して、様々なイベントを開催することができる。水上バスの船着場をつくるなど、水を活用した観光振興も考えていきたい。 ・これからは人口減少の時代を迎えるため、区外の人をもっと葛飾区を訪れるようなまちづくりを進めていきたい。 ・中川の川沿いの道が狭い。車が通れなくても良いので、もう少し道を広げることができれば良い。 ・工場が撤退する場合は区民が利用できる公園のような空間にしたい。 ・新小岩駅の橋上駅化や4つの交通広場の実現、駅前の拠点性や土地利用を検討することが課題。

10